

新技術・情報名	ストックと球根類の省力作付体系		
実施場所	三重県農業技術センター	分類	※②

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

ストックの直播栽培、及びその後作の球根類の導入による省力栽培を加味した作付け体系技術である。

(1) ストックの直播栽培は、移植栽培より上物採花率が高まり、は種後花日数が約15~20日短縮できる。ホワイトワンダーでは、8月11日は種で10月下旬、8月21日は種で10月下旬~11月中旬、9月1日は種で11月中旬~12月中旬開花となる。

(2) ストックの後作にスカシユリを導入する場合、品種により異なるが、エンチメントメントでは無冷蔵球の1月6日~1月20日定植~4月下旬~5月上旬開花、明錦では冷蔵球(5と30~40日)の12月16日~1月6日定植~4月下旬~5月中旬開花の作型が有望である。

(3) ストックの後作にグラジオラスを導入する場合、12月25日以降の定植では早植でも低温によるアブラノコの発生は少なく、早期開花と考慮すれば早植えほど好ましい。12月25日~1月10日定植のヘクターおよびトラベラで4月下旬~5月上旬開花の作型が有望である。

2) 技術情報の適用効果

(1) 従来のストック移植栽培を直播栽培することにより作業の省力化を図ることが可能で1戸当たりの栽培規模の拡大ができる。

(2) 球根類導入では所得率は低い。作業労力が少ないことから、出来る限り早植えによる早期出荷を目標とすれば、ストック+球の比較的高い所得が可能である。

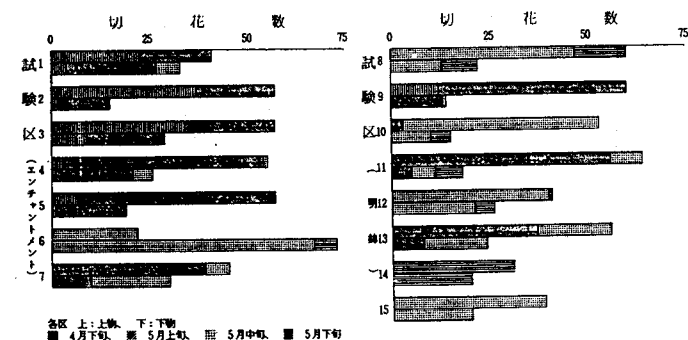
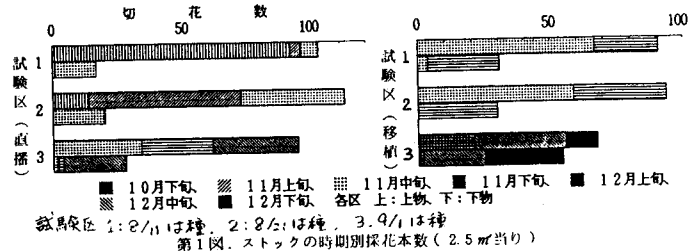
3) 適用範囲

ストック生産農家

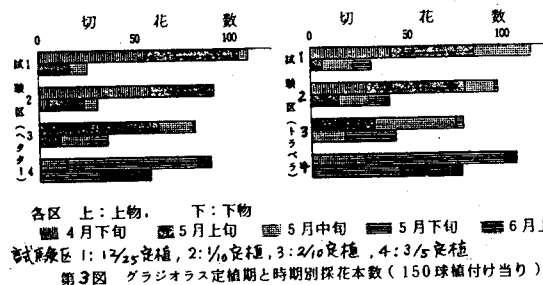
4) 普及上の留意点

- (1) ストック直播における品種の選定は、当面八重率の高い品種に限る。
- (2) ストックの直播き前の土壌消毒の励行。(病害対策、除草対策)

2. 具体的データ



各区 上:上物、下:下物  
 ■ 4月下旬 ■ 5月上旬 ■ 5月中旬 ■ 5月下旬  
 試験区 1:8:無冷球 12/16定植, 9:冷球 12/16定植, 2:10:無冷球 1/6定植, 3:11:冷球 1/6定植  
 4:12:無冷球 1/20定植, 5:13:冷球 1/20定植, 6:14:無冷球 2/5定植, 7:15:冷球 2/5定植



3. その他特記事項

- (1) ストックと中びとした作付体系の確立。昭58~60 県単
- (2) 中山間地帯における園芸作技術のシステム化。昭61~ 県単